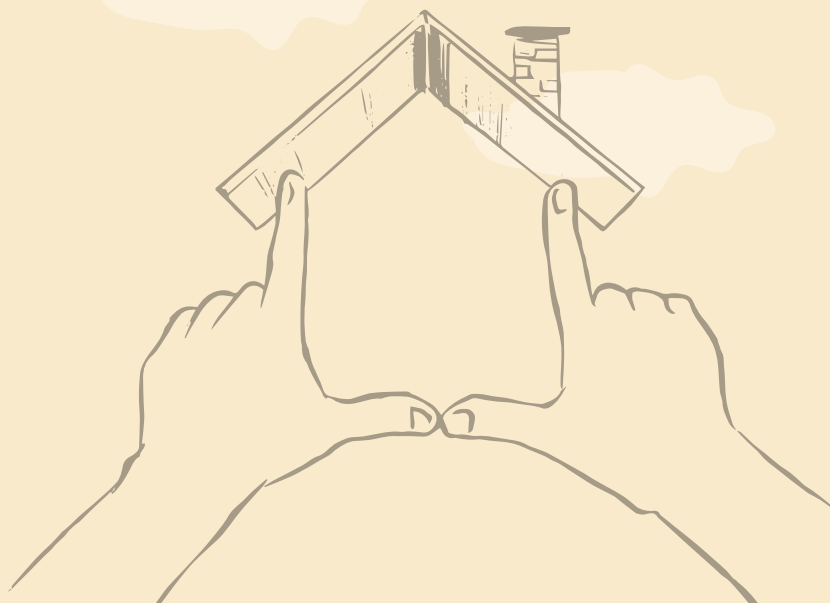




Living with Money

～豊かに生きるためのお金の学び～



教師用指導書



—はじめに—

みなさんの生活は、どのようなもので成り立っているでしょうか。
食べること、着ること、住むこと。それだけではありません。
人とのつながりや地域・社会における活動など、さまざまな
関わりの中で、生活は成り立っています。

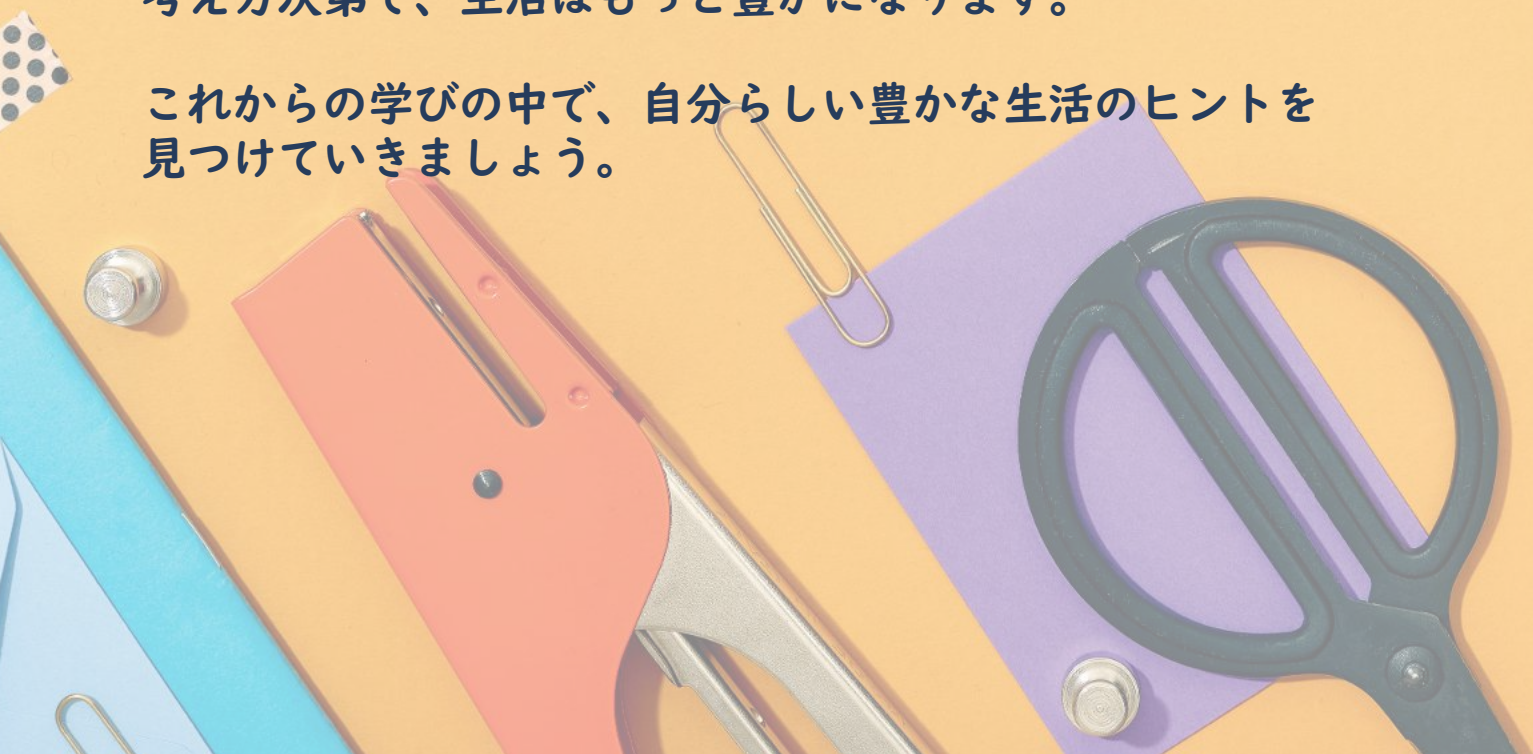
家庭科では、そんな日々の生活をより豊かにするために必要な
ことを学びます。

その一つが、「お金」との付き合い方です。

どう使う？ どう貯める？ どう守る？ どう稼ぐ？ どう増やす？

考え方次第で、生活はもっと豊かになります。

これからの学びの中で、自分らしい豊かな生活のヒントを
見つけていきましょう。





目次



<ガイダンス>

- 1. 大人になるってどういうこと? p 3
- 2. 毎日の生活を支えるものって何だろう? 【家庭編】 p 5
- 3. 毎日の生活を支えるものって何だろう? 【社会編】 p 6
- 4. 生活とお金のつながりを考えよう p 7
- 5. 生活を支えるモノマップ p 8
- 6. 卒業を迎える自分へ手紙を書こう p 9
- これからの学びの「キーワード」 - p10

<第1学年>

- 1. 未来につながる衣生活プランを作成しよう p 11
- 2. 未来につながる住まいをデザインしよう p 14

<第2学年>

- 1. 未来につながる調理に挑戦～私たちが作るとん汁～ p 17
- 「チョク家」のメンバー紹介- p 24
- 2. 生活するために必要なお金を見てみよう p 25
- 資料 「チョク家 父・母の給与明細」 - p 26
- 3. 家計管理に挑戦してみよう p 29

<第3学年>

- 1. 投資を体験してみよう p 32
- 2. 子どもを育てる～どんな支援が必要?～ p 43
- 3. 夢を叶える第一歩～「働く」ってどういうこと?～ p 45
- 4. 学習を終えて～3年間の学びを振り返ろう～ p 48
- 資料 「チョク家 父・母の給与明細」 <指導書用>- p 49

<5つの力>

-  稼・ 守
-  使
-  使
-  貯・ 使
-  使
-  貯・ 使・ 守
 増・ 稼
-  貯・ 使・ 守
-  貯・ 使・ 守
-  貯・ 使・ 守
-  貯・ 使
-  稼
-  守・ 稼
-  使・ 増
-  貯・ 使
-  稼
-  貯・ 使・ 守
 増・ 稼



1. 「大人」になるってどういうこと？



? 考えてみよう

中学生の自分は、もう「大人」？まだ「子ども」？

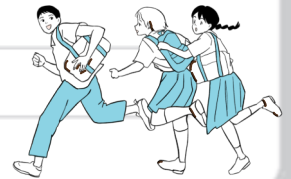
中学生の自分は・・・ 大人 or 子ども

<理由>

大人 → (例)自分の行動に責任を持たなければならない場面が増えてきたから。

子ども → (例)食事やお金の管理など、生活の多くを家族に支えてもらっているから。

生徒が生活面・学習面・対人関係など多角的な視点から自己を捉え、「大人／子ども」の判断を多面的に考えることができるよう指導する。



自分でできること・助けてもらっていることを整理しよう



	自分でできること	助けてもらっていること
生活面	(例) 朝ご飯を自分で準備している お小遣いの管理ができる 洗濯ものを畳んでいる	(例) 朝、起こしてもらっている 習い事へ送迎してもらっている 毎食作ってもらっている
学習面	(例) 自宅学習の時間を確保できる 宿題を期限内に提出できる 分からないところを質問できる	(例) 声をかけられてから勉強を始めている 提出期限を教えてもらっている 分からない問題は教えてもらっている
他者との 関わり	(例) 友人とトラブルがあった時は、 自分たちで話し合っ解決できる 自分から挨拶ができる 困っている人がいたら声をかける	(例) 人間関係で悩んだ時に相談している 意見を言うのが苦手で周りにフォロー してもらう 意見が対立した時に、相手が譲って くれることが多い



日常生活を多面的に見つめ、「自分でできること」と「支援が必要なこと」を整理することで、自立と共生の視点を育てることを目的とする。





「大人になる」 → (①) **自立**)すること
↓
(②) **共生**)につながる

「自立」「共生」とは、どのようなことだろう？

「自立」とは？



生活に関わる知識・技能を身につけ、それらを実践することで自分らしい生活ができるようになること。



「共生」とは？



生活を支える立場の一員として、家族や地域の人々ともによりよい生活をつくっていけること。



《振り返り ～「自立」と「共生」を目指して、今の自分ができること～》

【評価の観点】

「自立」＝自分でできることを増やす意識、「共生」＝周囲と支え合う意識を踏まえて振り返りが書けているか。

家庭・学校・地域など具体的な生活場面にに基づき、自分の役割や行動目標を挙げられているか。

他者との関わりを肯定的に捉え、協力の姿勢や他者理解へつながる記述が見られるか。



2. 毎日の生活を支えるものって何だろう？【家庭編】



考えてみよう



家庭の中で行われていることはどのようなことだろう？

(例) 食材の買い出し、献立を考える、調理、配膳、掃除、洗濯、衣替え、家計管理、介護、看病、ゴミ出し、子どものお世話 など



p 8 5.生活を支えるモノマップ【家庭（内側）】を完成させよう
～家庭の中で、私たちの生活を支えているモノや行為を書こう～

【家庭】の中での支えを整理してみよう



生活の場面(家のこと)

誰が主にしている？

食べる

看護・介護する

住む

着る

育てる

(例)自分、兄弟、親、祖父母 など

《振り返り ～ p 8 生活に必要な物マップを作ってみて気付いたこと～》

【評価の観点】

家庭内の役割や支えを、自分の生活に即して捉えることができているか。
家族の働きへの気付きが、感謝や協力の意識につながっているか。
家庭と自分の関わりについて、今後の行動を考える姿勢が見られるか。



3. 毎日の生活を支えるものって何だろう？【社会編】

? 考えてみよう



家庭外で、私たちの生活を支えてくれているもの・人を書いてみよう

(例)スーパー、農家、ごみ収集の人、クリーニング店、
医師・看護師、学校や習い事の先生、公共施設、
交通機関、配送業者 など



p 8 5.生活を支えるモノマップ【社会（外側）】を完成させよう
～家庭の外で、私たちの生活を支えているモノやサービスを書こう～

【社会】の中での支えを整理してみよう



生活の場面(家の外のこと)

誰がしている？

食べる

(例)農家の人，調理師

看護・介護する

(例)介護士，医師，

住む

(例)大工，ごみ収集の人

着る

(例)デザイナー，クリーニング店の人

育てる

(例)先生，見守り活動の人

《振り返り ～ p 8 生活に必要な物マップを作ってみて気付いたこと～》

【評価の観点】

社会の支えを、具体的な人・仕組みと関連付けて理解しているか。

家庭と社会の役割の違いを区別して考えられているか。


社会の支えに気付いたことが、広い視野で生活をとらえる態度につながっているか。



4. 生活とお金のつながりを考えよう



はじめに

2・3時間目で作成した「生活を支えるモノマップ」を見て、
お金が関わっているものにお金マーク  をつけよう。



気づいたことを書こう

(例)生活のほとんどにお金がかかっていることに気付いた。

家で何気なく使っているものにも費用がかかっている。

家計の大変さや、お金の使い方を考えるきっかけになった。



生活に関わる多様なモノ・サービスに「お金」が関与していることを理解しているか。



《まとめ》 ()の部分に自分の考えを書こう

お金は、((例)毎日の生活を支えてくれる大切な

(例)生活に密接に関わっている) ものである。



学習内容を踏まえて、自分の言葉でお金の役割を表現できているか。





6. 卒業を迎える自分へ手紙を書こう



卒業を迎える自分への手紙

- ・今の自分を振り返って
(今の自分はどれくらい自立・共生ができているか等)
- ・未来の自分に向けて
(卒業間近の自分にどのような姿になっていて欲しいか等)



卒業を迎える自分へ



この手紙は「評価対象」ではなく、自己理解を深める活動であることを伝える



最初のガイダンスで書いた手紙は、3年生のまとめの時間で読み返すことで、生徒が自分の成長を実感できるようにする。

()年()月()日()より

これからの学びの「キーワード」

「お金にまつわる 5 つの力」



貯める



「必要なもの」と「欲しいもの」
を分けて優先順位を考え、
計画的にお金を管理する力

増やす



お金を増やすための方法
やリスクを学び、長期的な
視点でお金を育てる力

稼ぐ



働くことの意義や仕組み
を理解し、経済的自立に
向けて行動する力



使う



自分の消費行動が環境や
社会に与える影響を考え、
責任ある選択をする力

守る



トラブルや詐欺のリスクを
理解し、適切な判断で安全に
お金を管理する力



1. 未来につながる衣生活プランを作成しよう

👉 振り返り～衣服の働き～



✔ 衣生活を振り返ろう

① 服の持ち数を数えてみよう

上着 () 枚 シャツ () 枚 ズボン () 枚 その他 () 枚

② 服を買うときに大事にしているのは?

デザイン 値段 ブランド 長持ち その他 ()

③ 手入れはできている?

洗い方に気をつけている アイロンをかける 畳んでしまう

ボタンつけ・補修ができる あまりしていない

👉 自分の衣服の持ち数や購入時の判断基準、日常の手入れの実態を振り返ることで、衣生活を客観的に見直すことをねらいとする。

👉 数や選択内容を評価するのではなく、今後の衣生活をよりよくするための視点をもたせることを重視する。





購入プランを立てよう

① その衣服を購入したい理由は？

💡 どうしてこの服が必要？どんなときに使う？

(例)冬の通学で寒さ対策が必要・今持っている服が小さくなった

② 何回くらい着用できそう？

💡 季節・用途・長持ち度を考えてみよう

(例)冬の間は週2~3回着る・年間で30~40回は使えそう

③ 長持ちしそうなポイントは？

💡 素材・作り・ブランド・ロコミなど

(例)厚手の生地で丈夫・ロコミで評価が高い・シンプルで流行に左右されない

④ 手入れはできそう？

💡 洗濯ネットを使う？ドライケアが必要？

(例)洗濯ネットで洗えそう・アイロン不要の素材・汚れやすい部分の注意が必要

⑤ 家計への影響は？

💡 購入したら家庭のお金の使い方にどのように関わる？

(例)少し高いが長く使えそう・買い替え頻度が減り家計の負担が軽くなる

⑥ 環境への影響は？

💡 長く着用できそう？リサイクル・リユースできる？

(例)長期間使用ができそう・サイズアウト後はリユースできる
乾きやすい素材で、水の使用量が少なくすすむ

👉 必要性・使用頻度・長持ち性の3点で購入の妥当性を考えさせる。

👉 価格だけでなく、長く使えるか・手入れできるかを判断材料にすることを促す。

👉 家計や環境への影響に気づかせ、持続可能な選択を意識させる。

👉 価値観や家庭状況に差があるため、生徒同士を比較せず、多様な判断を尊重する。





私の衣生活プラン

① 購入方法の工夫 (どんなことを意識して衣服を購入する?)



(例) 必要な服かどうかを考えてから買う
着回しできるデザインを選ぶ
値段だけで決めず、長く使えるものを選ぶ



② 手入れの工夫 (長持ちさせるための工夫は?)



(例) 洗濯ネットを使う・色物と白物を分ける
アイロン不要の素材を選ぶ
汚れを早めに落とす・ボタンを自分でつけ直す



③ 捨てる方・リユースの工夫 (着用しなくなった衣服はどうする?)



(例) サイズアウトしたらフリマアプリで売る・兄弟や友人にあげる
まだ着られるものは家族や友達に譲る
汚れがひどいものは雑巾にして再利用する



④ 予算を考えた購入の工夫 (限られたお金で、満足できる買い方は?)



(例) サイズアウトしたらフリマアプリで売る・兄弟や友人にあげる
まだ着られるものは家族や友達に譲る
汚れがひどいものは雑巾にして再利用する



 必要性・長持ち・手入れ・処分方法の4視点で衣生活を総合的に考えさせる。

 値段だけでなく、「長期的に見て得かどうか?」というライフサイクルコストに気づかせる。

 リユース・リサイクルを取り上げ、環境と家計の両面にメリットがある行動として捉えさせる。

 家庭によって環境が異なるため、生徒の選択を比較せず、多様な工夫を尊重する。

《 振り返り～衣生活の学習を通して、これからの生活で活かしたいこと～ 》

【評価の観点】

学んだ内容を基に、自分の衣生活を見直し、よりよい生活に向けた行動を考えようとする態度が見られるか。





2. 未来につながる住まいをデザインしよう



振り返り～住まいの空間～

①(**家族共有**)の空間 ③(**個人生活**)の空間



②(**生理・衛生**)の空間 ④(**家事作業**)の空間



住まいに求められることって何だろう

① 環境にやさしい住まいとは？(例：自然エネルギーの利用など)

(例)太陽光発電を使って電気をつくる・断熱性が高く、エアコンの使用を減らせる
節水できる設備がある・省エネ家電を使う・木材などの自然素材を使う



② 災害に強い住まいとは？(例：災害への備え、備蓄など)

(例)耐震、耐風設計がされている・家具の固定がされている非常食や水の備蓄がある
避難経路や避難場所が家族で共有されている・高い場所に電気設備がある



③ 誰でも安心して暮らせる住まいとは？(例：バリアフリーの視点など)

(例)段差が少ない・手すりがある・スロープがついている・家の中が明るく、見通しが良い
玄関や窓に十分な防犯対策がある・誰でも使いやすい配置になっている



環境・安全・福祉の3視点で住まいをとらえるよう促す。



日常生活の事例(自宅や学校、地域)と関連づけて考えさせる。



「設備」だけでなく、自分たちの工夫や行動も住まいの工夫に含まれることに気づかせる。



災害・環境問題・高齢化社会など、社会の課題と住まいの関係を結びつけて考えさせる。





【前回の授業とのつながり】 「お金」の視点から住まいを考えよう

① 光熱費を減らす工夫

💡 電気・ガス・水をどのように使用すると、毎月の支払いを減らせる？

(例) こまめに電気を消す・エアコンの温度設定を見直す・節水シャワーを使う
保温調理やまとめ洗いをする・断熱カーテンで冷暖房効率を上げる

② 長く安心して住むための工夫

💡 将来の大きな出費を防ぐためには？

(例) 定期的に設備点検をする（給湯器・ガス・電気）・家具の固定や耐震対策をしておく
水漏れや故障を放置しない
雨戸や網戸のメンテナンスをする→ 大きな修理費やリフォーム費を防ぐ

③ 毎日の暮らしを快適にする工夫

💡 快適さを上げるためには、何を優先してお金を使う？

(例) 暮らしの満足度が上がる場所に優先してお金を使う（照明、収納、寝具、空調など）
よく使う場所を優先して整える・全員が使いやすいように配置を工夫する

④ 未来の暮らしにつながるお金の使い方

💡 将来のことも考えると、どのようなお金の使い方が必要？

(例) 家賃、修繕費、保険など長期的な支出を見通す
省エネ家電など“将来の節約につながる方法”を考える
進学・就職など将来の生活に合わせて貯蓄する災害に備えて防災用品にお金を使う

👉 住まいと「家計」は密接につながっていることを意識させる。

👉 光熱費・修繕費・快適性・将来の出費など、短期（毎月）～長期（将来）の視点で考えるよう促す。

👉 「節約＝我慢する」だけでなく、お金をかける場所の優先順位を自分で判断する力を育てる。

👉 将来の暮らしを見通した選択ができるよう、予防や備えの考え方に触れられるようにする。

👉 家庭ごとの状況差に配慮し、生徒同士を比較せず多様な暮らし方を尊重する姿勢で指導する。









自分が特に大切にしたい住まいの条件(3つ選ぼう)



- 安全で安心できる 環境にやさしい 快適に過ごせる 光熱費をおさえられる
地域とのつながり 災害に強い その他()


理由


-  暮らし方や価値観によって重視する条件が異なることを理解させ、比較せず多様な選択を尊重する。
-  「なぜその条件を選んだのか」という理由づけを重視し、生活経験や将来の暮らしと関連付けて考えさせる。
-  条件は単独ではなく、安全・環境・快適・家計などが相互に関わることに気付かせる。
-  家庭環境の差が大きいため、「自宅できている／できていない」で評価せず、自分の理想を考える活動として扱う。



未来につながる住まいをデザインしてみよう (※ICT 活用)

- ・家族構成 ()
- ・想定人数()人
- ・工夫ポイント：   

-  家族構成や人数に合わせて、必要な空間や設備を考えられるようにする。
「安全・環境・快適・家計・福祉」の視点を取り入れ、複数の観点から工夫を考えさせる。
工夫ポイントは「なぜそうしたのか」の理由づけを重視し、将来の生活設計につながる思考を促す。
現在の住まいや家庭の状況に配慮し、多様な住まいのあり方を認める姿勢で指導する。

-  ※ICTが使用できない場合の対応策
模造紙 or ワークシートに手描きで“未来の住まい”をデザインする活動に置き換える。
間取り図・家族構成・工夫ポイントを、紙に自由にレイアウトして表現させる。

《 振り返り～住生活の学習を通して、これからの生活で活かしたいこと～ 》

【評価の観点】

学んだ内容を基に、自分の住生活を見直し、よりよい生活に向けた行動を考えようとする態度が見られるか。





1. 未来につながる調理に挑戦～私たちが作るとん汁～



振り返り～食事の役割～

A (**生活のリズム**)をつくる



B (**生命**)や(**健康**)を維持する

C (**活動のエネルギー**)となる



D (**体**)を成長させる

E (**食文化**)を伝承する

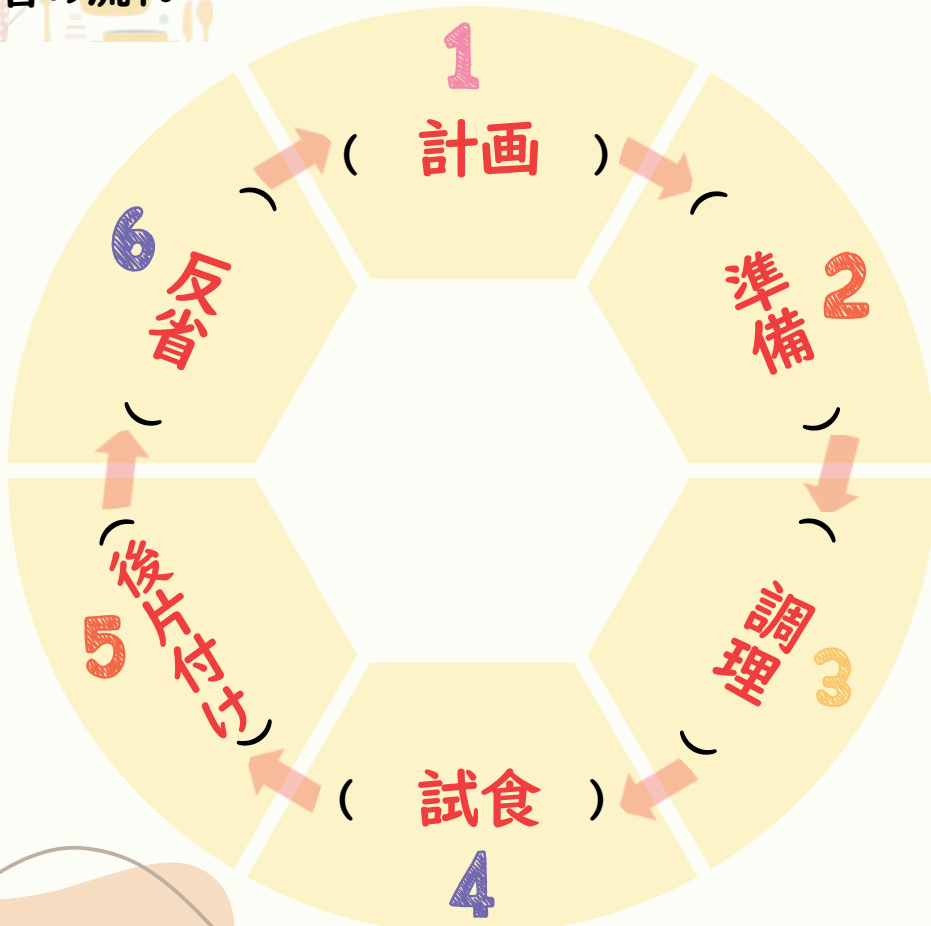


F (**人と人のつながり**)をつくる





調理実習の流れ

これから行う調理実習もこの流れで行うことを伝える。





1 計画を立てよう

調理実習のメニュー 「① とん汁」

- ・ 予算  : ()円 → 具材のみ
- ・ 食材を購入する場所  : ()
- ・ グループ : ()班
- ・ メンバー : ()

 予算については、具材のみを対象とし、調味料類は学校備品を使用する旨を事前に説明する。

 予算額は地域や季節によって食材価格が大きく異なるため、授業者が学校の実情に応じて設定するものとする。

 食物アレルギーのある生徒がいる場合は、使用する食材の可否を事前に確認し、班分けや食材選択の段階から安全面に十分配慮する。



どんな食品を使う？ ～グループワーク ～

「とん汁」をつくろう ①事前準備

「とん汁」に入りたい食材を考えてみよう！


考えるヒント(例)

- ・ 予算：予算内に収まるかな？
- ・ 旬：今の季節においしい食材かな？
- ・ 見た目：色どりが良くなるかな？
- ・ 地産地消：地元で生産された食材はあるかな？
- ・ 栄養バランス：どんな栄養が摂取できそうかな？
- ・ 食品ロス削減：食材を無駄なく活用できそうかな？





「とん汁」に入れたい食材を書こう！ (※豚肉  は必ず使用)

(例)にんじん, だいこん, じゃがいも, ごぼう, ねぎ,
こんにゃく, とうふ, きのこと類, さつまいも, 油揚げ

 前ページの考えるヒントを基に、食材を考えるようにする。
班での話し合いを通し、協力して意思決定する姿勢を育てる。



2 準備をしよう (※ICT 活用)

食品名	一人分の分量 (g)	人数 (人)	合計必要量 (g)
<p> 一人分の分量 × 人数 = 合計必要量の計算を、ICTで自動化し、計算ミスを防ぎながら効率よく作業することをねらいとする。</p> <p> ※ICTが使用できない場合の対応策 ICT が使用できない場合は電卓を各グループに配布する。</p>			



教科書P() 「とん汁」の作り方を参考にして作り方をまとめよう

How? 【作り方】



教科書の作り方をそのまま写すのではなく、必要な工程を自分の言葉で整理することを伝える。



調理の流れがつかめるよう、番号を付けて順序立てて書かせる。



包丁操作・下ごしらえ・火加減など、安全に関わる工程を確実に含めさせる。



味噌は煮立たせないことなど、料理のポイントを押さえて記入するよう助言する。



食材購入リスト
(購入したものにチェック しよう)

生鮮食品と加工食品、
それぞれの食品の選ぶ
ポイントを思い出そう!

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

購入リストにチェックすることで、買い忘れを防ぎ、必要な材料を確実にそろえられるようにする。
また、購入量と照らし合わせて確認する習慣を身につけさせ、計画的な買い物につなげる。



予算内に収まっているか確認させる。

【合計金額 】

円



3 調理をしよう

～以下の事を思い出しながら調理実習を行うようにしよう～

- 各食品の調理上の性質(調理による変化)
- 基本的な調理方法
(洗う、切る、ゆでる、いためる、煮る、焼く、蒸すなど)
- 調理用具や加熱器具の安全で正しい使い方
- 食品や調理用具などの衛生的な扱い方



4 試食しよう(振り返り)

出来上がったとん汁をよく観察し、
味わって食べよう。
食べてみて感じたことを
下に記入しよう。

【完成写真を貼る】



写真が用意できない場合は、完成した料理の様子をイラストで記録させる。

【見た目(盛り付け・いろどり)】

(例)具材の大きさが少しバラバラで、見た目に差があった。
ねぎを最後に入れたので、緑が映えておいしそうに見えた。



色のバランスに気づかせ、「見た目も食欲に関わる」という視点を示す。
具材の大きさがそろっているか、盛り付けが丁寧かなどを観察する。

【味】

(例)だしの味がよく出ていて、おいしかった。野菜の甘みがあってやさしい味だった。
少し味が薄かったなので、味噌をもう少し入れてもよかったと思った。



だし・味噌のバランス、塩分の感じ方、具材の甘みなど、おいしさの理由に目を向けさせる。



【香り】

(例)味噌のよい香りがして、温かい気持ちになった。
こんにゃくのおいが少し気になった。食べる前からだしの香りがした。

 だしや味噌、野菜の香りなど、普段は意識しない部分にも注意を向けさせる。

【食感】

(例)野菜がやわらかく煮えていて食べやすかった。
じゃがいもが少し固かったので、もっと煮てもよかった。
こんにゃくの弾力があり、食べごたえがあった。


 切り方や加熱時間が食感に影響することを振り返らせる。

【温度】

(例)温かいうちに食べられて、とてもおいしかった。
少し冷めてしまったので、配膳をもう少し早くしたいと思った。

 適温で食べられたか、冷めてしまった場合はその理由（作業時間・配膳など）を考えさせる。

5 後片付けをしよう

 出来たらチェック しよう

- 食器や用具を洗い、決められた場所に戻した
- ふきんやまな板、食器洗い用スポンジはきれいに洗い、その後、乾燥させている
- ガス栓を閉めた
- ごみを始末した
- 調理台をきれいに掃除した

 流れ

1. 班内で自己チェック
2. 記入・確認
3. 教員が最終チェック
4. 必要に応じて再確認・やり直し

△
チ
ェ
ッ
ク
表
▽

- | | | |
|----|------------------------------|------------------------------|
| 1班 | <input type="checkbox"/> 確認済 | <input type="checkbox"/> 再確認 |
| 2班 | <input type="checkbox"/> 確認済 | <input type="checkbox"/> 再確認 |
| 3班 | <input type="checkbox"/> 確認済 | <input type="checkbox"/> 再確認 |
| 4班 | <input type="checkbox"/> 確認済 | <input type="checkbox"/> 再確認 |
| 5班 | <input type="checkbox"/> 確認済 | <input type="checkbox"/> 再確認 |
| 6班 | <input type="checkbox"/> 確認済 | <input type="checkbox"/> 再確認 |
| 7班 | <input type="checkbox"/> 確認済 | <input type="checkbox"/> 再確認 |
| 8班 | <input type="checkbox"/> 確認済 | <input type="checkbox"/> 再確認 |



6 反省

① 食材の品質・量・予算は適切だったか

💡 量は人数分に合っていた？品質は良かった？予算内で購入できた？

(例)人数分に合った量を準備できたと思う。余りもほとんど出なかった。品質のよい食材を選ぶことができたが、少し予算を意識しすぎて量が足りなかった。予算内で買うことはできたが、量が多くて少し食品ロスが出てしまった。

② 衛生面に気を付けて調理できたか

💡 食材を洗う・手を清潔にする・火の扱い等に注意できた？

(例)調理前と途中で手を洗い、衛生に気を付けて調理できた。途中で火を強くしすぎてしまったので、次はもっと注意したい。食材を洗う順番を意識できなかったところが反省点だと思う。

③ 旬や地産地消を意識し、環境や食品ロスに配慮した調理ができたか

💡 食材を無駄なく使うことができた？エネルギーを節約できた？

(例)旬の食材を使ったので、安くておいしく調理できた。皮や切れ端もできるだけ使い、食品ロスを減らすことができた。エネルギーの使い方までは意識できなかったなので、次回は気を付けたい。

④ グループで協力して取り組むことができたか

💡 計画から調理、後片付けまでメンバー全員で協力できた？

(例)役割分担をして、全員で協力して進めることができた。一部の人に作業が偏ってしまったので、次は声をかけたい。後片付けの時にもっと周りを見て動けばよかったと思う。

👉 食生活が健康だけでなく、家計や環境とも関わっていることに気付かせる。

👉 食材の品質・量・予算を踏まえ、目的に応じて適切に選択する力を育てる。

👉 衛生・安全に配慮した調理の重要性を理解させる。

👉 旬や地産地消、食品ロスやエネルギー使用など、環境への配慮を意識させる。

👉 計画から後片付けまで、グループで協力して取り組む態度を養う。

《 振り返り～食生活の学習を通して、これからの生活で活かしたいこと～ 》

【評価の観点】

学んだ内容を基に、自分の食生活を見直し、よりよい生活に向けた行動を考えようとする態度が見られるか。

「チョコク家」のメンバー紹介



父 マモル
(会社員)



母 メグミ
(会社員)



長男 ユタカ
(中学3年生)



長女 ミライ
(小学3年生)

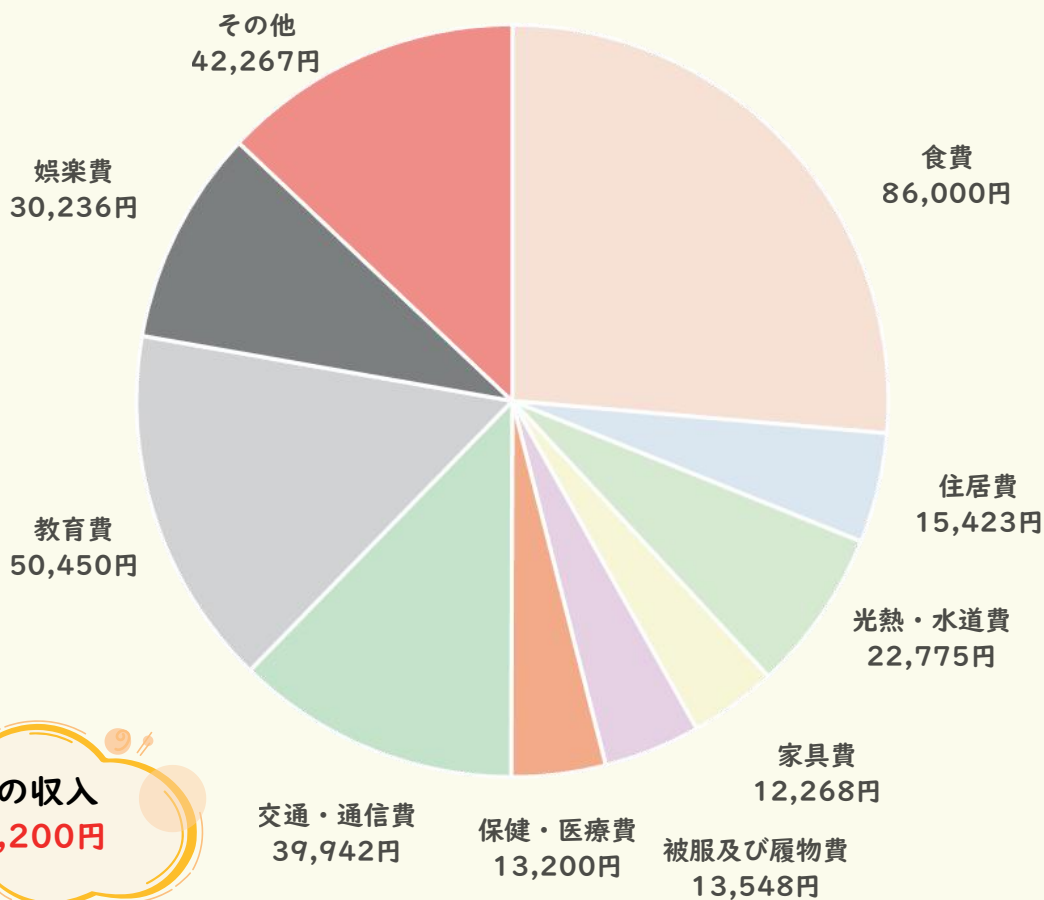
来年の目標：家族で海外旅行に行くこと！！

目標達成のためにお金との関わり方を
一緒に考えていこう！



2. 生活するために必要なお金を見てみよう

「チョク家」の7月の支出（生活費の内訳）



7月の収入
567,200円



P46の資料①「チョク家父・母の給与明細」を基に、家庭の収入として把握すべき金額は、支給額の合計ではなく差引支給額（手取り）であることを理解させる。



父・母それぞれの差引支給額を確認・合計することで、チョク家の7月の収入が567,200円であることを導出し、家計の収支を考える際には差引支給額を基準とする必要性を整理する。

【合計



326,109

円

「チョク家」の7月の支出を見て気づいたことを記入しよう

(例)食費・光熱費・住居に関わるお金など、毎月必ずかかる支出が多い。
減らせそうな支出と、減らしにくい支出があった。
生活するために必要なお金がたくさんあることが分かった。



家計の具体例から支出の内訳に気付かせ、家計を把握することの重要性を理解させる。





資料 「チョチク家 父・母の給与明細」

7月の収入 567,200円

父 マモル の給与明細



従業員コード		氏名						
800123		チョチク マモル					差引支給額	(368,200)
支給額	基本給	時間外手当	通勤手当	家族手当	減給金	支給額合計		
	360,000	60,000	15,000	25,000	0	460,000		
控除額	健康保険料 (介護保険料を含む)	厚生年金料	雇用保険料	所得税	住民税	控除総額合計		
	23,000	42,000	2,800	9,000	15,000	91,800		

母 メグミ の給与明細



従業員コード		氏名						
412537		チョチク メグミ					差引支給額	(199,000)
支給額	基本給	時間外手当	通勤手当	家族手当	減給金	支給額合計		
	230,000	10,000	5,000	0	0	245,000		
控除額	健康保険料 (介護保険料を含む)	厚生年金料	雇用保険料	所得税	住民税	控除総額合計		
	11,500	21,000	1,500	1,500	10,500	46,000		

? 考えてみよう

次の発言は、前ページの生活費のどの項目に当てはまるでしょう？

父



風邪をひいたので病院に行き、薬をもらいました



① 保健・医療 費

母



「スーツ」を新しく購入しました！

② 被服及び履物 費

長男



スマートフォンで、通話やインターネットを利用しています！

③ 交通・通信 費

長女



そろばんと空手教室に通っているよ！

④ 教育 費

 日常生活の具体例を通して、家計の支出の内訳を理解させ、生活と支出のつながりに気付かせる。







自分の生活を振り返ろう

下の表に、自分が生活の中でお金  が必要な場面を考えてみよう



費目	具体例	優先度 (高・中・低)
(例) 食費	毎日の食事	高
交通・通信	スマートフォンの利用	高
教育	学校に必要な教材	高
被服及び履物	新しい靴	中
娯楽	ゲームの課金	低
	「高・中・低」は人によって違ってよいことを伝える。	
	日常生活の中で必要な支出を具体的に挙げることで、家計には優先順位があることに気付かせる。	

《 振り返り ～工夫すれば減らすことができそうな出費を考えてみよう～ 》

【評価の観点】

日常生活の出費を具体的な生活場面と関連付けて捉えているか。
 出費の中から、工夫によって減らすことができそうなものを考えられているか。
 出費について考えたことが、自分の生活を見直そうとする態度につながっているか。



3. 家計管理に挑戦してみよう

「チョコク家」の7月の収入は567,200円で、支出は326,109円なので、(241,091)円の(黒字・赤字)です。

今日は、収入が支出より多いんだね！これなら余裕があるのかな？

それなら、お小遣いを増やしてよ～！

うーん、そう思うかもしれないけど、余裕があるとは限らないわよ。

海外旅行にも行きたいし、もしもの時に備えた貯金も必要だろう？
先を見据えて、計画的にお金を貯めておく必要があるんだ。

なるほど、、、黒字でも油断できないんだね！

父と母の言葉から考えよう (※ICT 活用)

どんな「もしも」が考えられる

その時に必要になるお金は？

(例) けがや病気をしたとき
家の物がこわれたとき
新たにやりたいことが見つかったとき

病院で診てもらったり、薬を買うお金
修理したり、買い替えたりするお金
挑戦するために使うお金

将来の予想不可能な出来事にも備える必要があることに気付かせ、
計画的に貯めることの意味を考えさせる。

具体的な「もしも」の場面を想定することで、貯めることが
生活の安心につながることを理解させる。



? 考えてみよう

チョコク家の7月の生活行動を見てみよう



- ①毎週日曜日は、家族そろって
外食した。



- ②家にいる時は、各々の部屋で常に
エアコンをつけっぱなしだった。



- ③まとめ買いした食材を使いきれず、
捨ててしまうことがあった。



- ④家族でアウトレットに行き、安い
からと商品を大量に購入した。



- ⑤父「服が大好きで、つuitくさん
買ってしまった。」



- ⑥母「ジムを契約したのに全く
行っていないな〜。」



- ⑦長男「スマホゲーム、誘惑に
負けて課金してしまった」



- ⑧長女「習い事帰りにいつもコンビニ
でお菓子を買っているよ。」



海外旅行にも行きたいし、もしもの時のためにも
お金を貯めておきたいから、この行動は見直さないかね。



良い考えだね。
どんな風に見直せるかを考えてみよう！！




具体的な家庭の生活行動を提示することで、生活とお金の関係を
多面的に捉え、次ページの課題解決的な学習につなげる。




チョコク家の7月の行動の中から、特に見直すべき点を
3つ挙げて改善ポイントを考えてみよう



見直すべき 行動の番号	理由	どのような改善が できそう？
(例) ②	<ul style="list-style-type: none"> ・電気代が無駄にかかるから ・環境にもよくないから 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族で使う部屋に集まる ・タイマーを使う
④	<ul style="list-style-type: none"> ・必要以上に買っているから ・安くても使わなければ無駄だから ・衝動買いになっているから 	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に必要な物だけ買う ・予算を決めてから行く ・すぐ買わず一度考える
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・利用していないのにお金を払っているから ・契約内容を見直していないから 	<ul style="list-style-type: none"> ・解約やプラン変更をする ・行く曜日や時間を決める ・家で運動する方法に変える

 チョク家の生活行動を基に、お金や資源の使い方に着目して課題を見だし、その理由を考えた上で、よりよい生活に向けた改善方法を考える力を育成する。

 選ぶ行動は生徒によって異なってよいことを伝える。
「やめる」「我慢する」だけでなく、工夫・代替案・意識の持ち方など、多様な視点で、幅広い改善案が出るよう促す。

《 振り返り ～自分の生活行動を振り返り、これから改善できそうなことを考えよう～ 》

【評価の観点】

自分の生活行動を、具体的な場面と結び付けて振り返っているか。
生活行動の中から、工夫によって改善できそうな点を見いだしているか。
振り返りを通して得た気づきを、これからの生活を見直そうとする態度につなげているか。

 本振り返りでは、正解を求めるのではなく、生徒一人一人が自分の生活を見つめ、無理のない改善を考えようとする姿を評価する。





1.投資を体験してみよう

<あれから1年後・・・>

いや～、海外旅行ほんとうに楽しかったね！いい思い出になったよ。



そうだね！みんなで生活行動を見直して、頑張ったから行けた旅行だもんね。



これからも計画的にお金を管理していきたいね。
“今の楽しみ”のためだけではなく、“これからの生活”のためにも**お金を増やす**ことも考えていこうかな？



増やす！？どうやって？
お金って、使ったら減るものでしょ？



お金を増やす(得る)方法って、どんな方法があると思う？



考えてみよう

お金を増やす(得る)方法を書き出してみよう



(例) 働く・お小遣いをもらう・お年玉をもらう・不用品を売る
貯金の利息・投資をする



「増やす＝投資」に限定せずに幅広い視点が出るよう促す。


生徒の発達段階を踏まえ、現在できる方法と、将来できるようになる方法があることを押さえる。



「投資」って何だろう？分かりやすくまとめてみよう

(※ICT  活用)

(例)お金を出して、会社や事業を応援すること
将来、利益が出ることを期待してお金を使うこと
お金を預けたり使ったりして、増えることも減ることもあるもの
すぐではなく、時間をかけて増やす考え方

 投資について、難しい用語や制度に踏み込みすぎず、お金を「増やす」方法の一つとしての基本的な考え方を理解し、自分の言葉で分かりやすく整理する力を育成する。

 ※ICTが使用できない場合の対応策

投資を構成する要素をカードとして提示し、それらを選択・組み合わせ・文章化する活動を行う。生徒自身が投資の特徴を整理し、自分の言葉で意味づけできるようにする。

日本では、2001年ごろから、「貯蓄から投資へ」という考えが進められてきたんだよ。

へえ、そんな前から言われていたんだ。
でも、「貯蓄」と「投資」ってどう違うんだろう？

「貯蓄」と「投資」の特徴をそれぞれまとめよう

貯蓄

- ・銀行にお金を預けるなどして、安全にお金を貯める方法。
- ・少しずつお金が増えることもある。
- ・もしもの出費や将来に備えるのに向いている。

投資

- ・会社や事業を応援したり、お金を増やすことを期待して行う方法。
- ・増えることも減ることもあり、時間をかけて考える必要がある。
- ・将来の利益を目指して長期的にお金を使う考え方である。

 貯蓄と投資の特徴を比較することで、違いが理解しやすくなる。



「貯蓄から投資へ」という考え方は、実際にはあまり広まらなかったんだ。でも最近になって、また注目されるようになってきたよ。



確かに、最近ニュースでも「投資」という言葉をよく聞くね。どうして、注目されるようになってきたのかな？



? 父の言葉から考えてみよう

どうして「投資」が注目されるようになってきたのだろう？

①(低金利時代)だから

【例】100万円を1年間、銀行  に預けると・・・

【1974年】
金利3.00%

100万円

103万円

<利息>

(3万)円




1年後

【2025年】
金利0.183%

100万1813円

(1,813)円

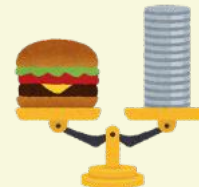
②(物価が上昇している)から⇔お金の価値は、(下がる)

【例】同じ「ハンバーガー  」でも・・・

【20年前】
80円

【10年前】
120円

【現在】
180円





③(少子高齢化時代)だから

→今の働く人が、高齢者を支えている仕組み(年金など)があるけど、..

【年金を支える現役世代の負担の変化】



「人生100年時代」⇒将来の年金支給額が減少していく可能性がある



社会が大きく変化している今、将来も見据えて「お金」を管理していく必要があるんだね。

そうだね。

社会が大きく変化していく中で、企業が新しいことに挑戦するためにも、「投資をする」という視点もあるね。

最近では、利益だけではなく、環境や社会に良い取り組みをしたり、ルールを守って正しく運営している企業を応援する投資も注目されているんだよ。

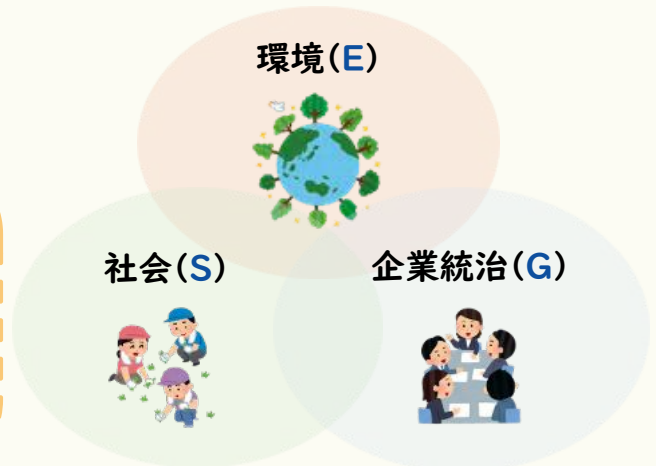


父の言葉から考えよう

(ESG)投資



企業の利益だけではなく、環境(E)、社会(S)、企業のルールや仕組み(=企業統治)(C)に対する企業の取り組みを評価基準として投資先を選ぶ投資方法



「ESG投資」について調べてまとめてみよう(※ICT 活用)

項目(英語)	意味、具体的な取り組みなど
E (Environment) 	(例)環境を大切にし、地球や自然への影響を 考えて取り組んでいるかどうか 再生可能エネルギーの利用、生物多様性の保全 水資源の有効活用、環境汚染への対応
S (Social) 	(例)働く人や地域の人など、社会に関わる 人を大切にしているかどうか 女性活躍の推進、適切な労働環境の実現 地域社会への貢献
G (Governance) 	(例)決まりを守って会社を運営し、不正を しない姿勢を持っているかどうか 積極的な情報開示、汚職防止、セキュリティ対策



※ICTが使用できない場合の対応策

ESG投資を構成する要素をカードとして提示し、それらを選択・組み合わせ・文章化する活動を行う。生徒がESG投資の特徴を自ら整理し、自分の言葉で意味づけできるようにする。



企業を評価する視点として、利益だけでなく環境・社会・企業の姿勢があることに気付かせる。

《 振り返り ～ 「投資したい！」と思う企業はどんな企業ですか？
理由も書いてみよう～ 》

【評価の観点】

ESG投資の視点(環境・社会・企業統治)を踏まえ、投資したい企業の特徴を考えようとしているか。

企業を選んだ理由について、自分なりの考えを理由とともに具体的に記述しているか。

利益だけでなく、企業の姿勢や社会への影響に目を向けて考えているか。



投資体験のグループ ～グループワーク～



👉 グループでの話し合いを通して、投資先を選ぶ際の視点や考え方の多様性に気付かせる。

👉 本活動では、可能な限り4人グループで活動を行う。

・グループ：（ ）班

・メンバー：（ ）

ルール説明



- ・投資に使える資金は **10万円** とする。
- ・投資できる企業は、企業一覧の中から**1社**とする。
- ・投資する企業と金額は、企業リサーチを行った後に決定する。
- ・1株ずつ購入できるものとし、株を買う日を「基準日」とする。
- ・株株は途中で売らず、原則として最後まで持ち続けるものとする。
- ・株価の変動は、ICTを活用してグループで調べる。

👉 本活動の効果を高めるため、可能な限りICTを活用した調べ学習を行うことができるよう配慮する。
なお、生徒1人1台でなくても、グループに1台程度のICT環境が確保できれば実施可能である。

企業一覧



①キヤノン株式会社



⑤花王株式会社



②イオン株式会社



⑥トヨタ自動車株式会社



③株式会社良品計画



⑦富士通株式会社



④株式会社ユニクロ



⑧株式会社三菱UFJ
フィナンシャル・グループ



企業リサーチをしよう



左ページの企業一覧から、グループ内で担当を決め、1人2社ずつ調べよう。

★企業リサーチ①

企業名：（（例）①キヤノン株式会社）

① どのような会社ですか。（主な事業内容や、どのような商品を提供しているか等）

（例）日本を代表する総合精密機器メーカーで、1920年代からカメラや光学機器の研究・製造を行っている。
プリンター・コピー機などのオフィス機器や、デジタルカメラ・レンズなどの映像関連機器、医療機器（MRI・CTなど）、産業用機器や部品を製造している。
これらの製品は日本だけでなく世界中で使われている。



② ESGの取り組みを調べよう

（例）

- ・環境保全のための製品や技術の開発
- ・気候変動への対応や資源のリサイクル
- ・生物多様性を守る活動
- ・社会への貢献活動（教育支援や文化支援など）
- ・経営の内容や社会への取り組みを、報告書などで公開している。



③ 調べて分かったこと・気づいたこと

（例）キヤノンは写真やプリンターで有名な会社だと思っていたが、実は医療機器や産業用機器など多くの種類のものを作っていると分かった。
また、製品を作るだけでなく、環境を守るための活動や社会のための活動も行っていることに気づいた。



★企業リサーチ②

※「生徒用教材」は、企業リサーチ①と同様の構成で続く

ねらい

- ・身近な企業の事業内容を調べることを通して、企業が私たちの生活や社会と深く関わっていることに気づかせる。
- ・企業のESG（環境・社会・ガバナンス）への取り組みに目を向け、企業を多面的に捉える視点を養う。
- ・企業リサーチで得た情報を基に、投資体験における投資先を選択できるようにする。

学習方法

4人1グループとし、1人2社ずつ担当して調べ学習を行う。

- ①企業の主な事業内容
 - ②ESGの取り組み
 - ③調べて分かったことや気づいたこと をワークシートに整理する。
- その後、各自が調べた2社について、グループ内で内容を共有する。

本活動で行った企業リサーチは、模擬投資活動において投資先を決定するための基礎資料として活用する。

企業リサーチを通して得た情報や気づきを基に、「なぜその企業を選ぶのか」という理由を明確にしながら、投資先の決定へとつなげていく。

《 振り返り ～グループで共有した企業リサーチをまとめよう～ 》

【評価の観点】

グループで共有した内容を基に、企業リサーチを整理してまとめている。
企業の特徴やESGの取り組みについて、自分なりの気づきを表現している。
模擬投資につながる視点で振り返りを行っている。

投資先を決定しよう



① 投資する企業名(投資金額は10万円)

(例) ①キヤノン株式会社



② 購入時の株価

(例) 4,769 円

③ 持っている株数(10万円÷株価=持っている株数)


(例) 20 株

④ 投資先に選んだ理由

(例) プリンターやカメラなど、私たちの生活や学校で身近に使われている製品を作っている会社だから。また、環境に配慮した製品づくりやリサイクルの取り組みを行っており、利益だけでなく、社会や環境のことも考えている企業だと思ったため、投資先に選んだ。

⑤ その企業に期待すること

(例) 環境にやさしい製品づくりを続けてほしい。社会の役に立つ企業として成長してほしい。

 本活動は、企業リサーチやESGの学習を踏まえ、情報を根拠に投資先を判断する学習として位置付ける。グループで話し合いながら企業を選び、株価や株数を計算することで、投資には数値的な理解と企業理解の両方が必要であることに気付かせる。事業内容やESGの視点を取り入れることで、社会的な役割や将来性を考えて意思決定する態度を育成する。

「投資」記録ノート の書き方



日付…その日の記録をつけた日付を書こう。

株価…その日の1株あたりの値段を書こう。株価は日によって変化するため、毎回記録しよう。

持っている株数…10万円で購入した株の数を書こう。

この学習では、途中で売買を行わないため、毎回同じ株数を書こう。

評価額(株価 × 株数)…その日の株価に持っている株数をかけて、現在の資産の価値を計算して書こう。

前回からの増減…前回の記録と比べて、評価額が 増えた → 「増加」減った → 「減少」
変わらなかった → 「変化なし」のいずれか一つに○をつけよう。

企業への影響…株価の動きや、企業を取り巻く社会の出来事をふまえて、その企業にとって「良い」「悪い」「分からない」のいずれか一つに○をつけよう。

「投資」記録ノート (11回分)



回	日付	株価	持っている株数	評価額 (株価×株数)	前回からの増減	企業への影響
例	11/3	2,476円	40株	99,040円	増加 減少 変化なし	良い 悪い 分からない
1						良い 悪い 分からない
2	<p> <u>投資記録ノートの扱い</u></p> <p>本学習では、毎時間の授業開始時に 5～10分程度 を用いて、投資記録ノートへの記入活動を行う。生徒は、あらかじめ決定した1社の株価をもとに、株価・評価額・前回からの増減・企業への影響を記録し、株価の変化と企業や社会との関係について考える。</p> <p>本活動は、売買や利益の獲得を目的とするものではなく、お金と社会のつながりを継続的に考える態度を育成することをねらいとしている。</p>					
3	<p> 毎時間冒頭に位置付けることで、投資体験を「特別な学習」ではなく、日常的な生活と結びつけた学びとして捉えさせることを意図している。</p>					
4						
5					増加 減少 変化なし	良い 悪い 分からない
6					増加 減少 変化なし	良い 悪い 分からない
7					増加 減少 変化なし	良い 悪い 分からない
8					増加 減少 変化なし	良い 悪い 分からない



回	日付	株価	持っている株数	評価額 (株価×株数)	前回からの増減	企業への影響
9					増加 減少 変化なし	良い 悪い 分からない
10					増加 減少 変化なし	良い 悪い 分からない
11					増加 減少 変化なし	良い 悪い 分からない

投資体験 <振り返り>

① 投資先の選び方はどうだったか

💡 グループで選んだ企業は、ESGの観点を考えて選択できた？

(例) 環境にやさしい取組をしている企業を選ぶことができた。
3つすべてを考えるのは難しかったが、少なくとも1つは意識できた。

② 投資判断の振り返り

💡 グループでの話し合いの結果、企業を応援する方針はどう変わった？

(例) 意見が分かれたが、理由を聞いて納得し、考えを変えた。
自分は利益を重視していたが、友達の意見を聞いて社会への影響も大切だと思った。

③ 投資体験から学んだこと

💡 今回の投資体験を通して気づいたことや今後にかきたいことは？

(例) 投資はお金を増やすだけでなく、企業を応援する行動だと分かった。
すぐに答えを出すのではなく、よく考えて選ぶことが大切だと思った。

👉 生徒が投資を「自分の将来や社会に関わる選択」として捉え、今後の生活に生かそうとする態度を育成することをねらいとする。

👉 投資を利益の追求だけで捉えず、企業や社会を応援する選択の一つとして考えられるよう支援する。



2.子どもを育てる～どんな支援が必要？～



はじめに

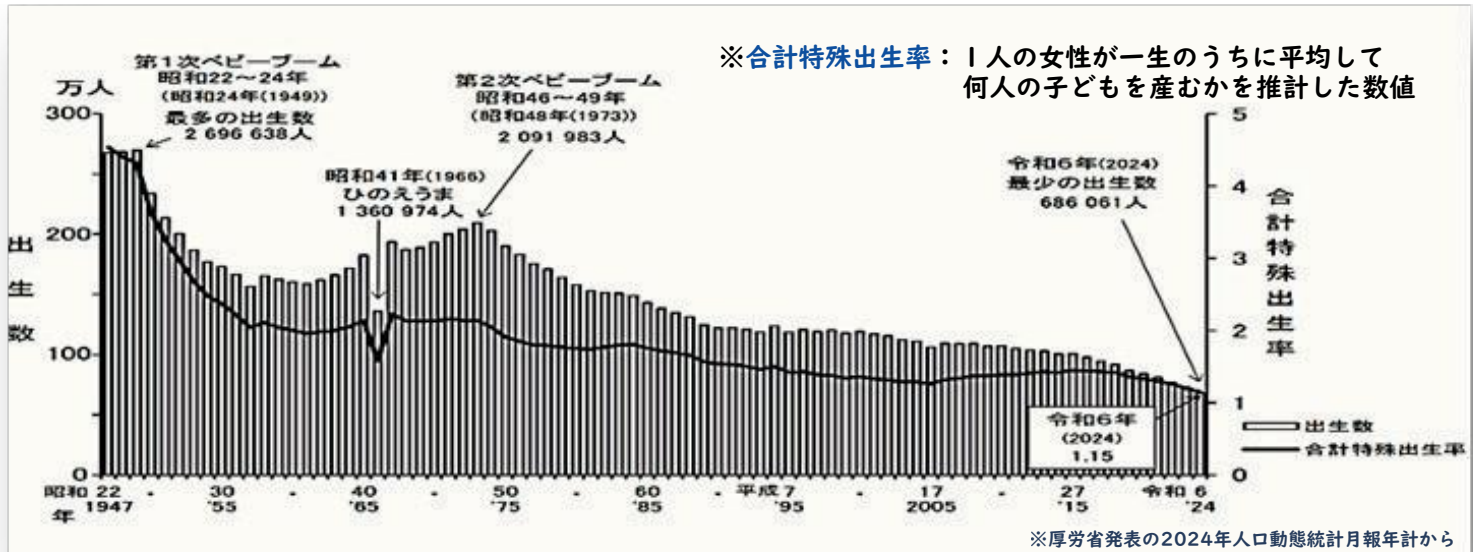
「触れ合い体験」で、保護者にインタビューした
「子育てで大変なこと・困っていること」を振り返ろう

- (例) 寝かしつけや食事の準備に時間がかかること。
思ったよりも色々な場面でお金が必要なこと。
仕事と育児の両立。毎日バタバタで忙しいこと。

どの場面で・どんな理由で大変なのかを具体的に整理させる
ことで次の学習につなげやすくなる。



<出生数及び合計特殊出生率の年次推移>



出生数や合計特殊出生率が減少傾向であるのはなぜだろう？

- (例) 子育てにはお金がかかるから。仕事と子育ての両立が難しいから。
保育園が足りていないから。結婚する人が減っているから。

生徒が少子化の現状を理解し、出生数や合計特殊出生率の意味を知る。

子育ての困難さや社会的背景と結びつけ、少子化の原因を多角的に
考えられるようにする。



子育ての場面ごとに考えよう(※ICT 活用)



子育ての場面	大変なこと (お金・時間・心身の負担等)	社会の支援
出産 	(例) 出産費用がかかる 母親の体への負担が大きい	(例) 出産育児一時金 病院や助産師のサポート 産前産後休業制度
育児生活 	(例) 世話で自分の時間が少なくなる おむつやミルクなどの出費が続く	(例) 児童手当 保育所・認定こども園 育児休業制度
教育 	(例) 学校や習い事にお金がかかる 勉強や進路について悩む	(例) 就学援助制度 奨学金制度
医療 	(例) 病院に行くとお金がかかる 急に病気になることがある 看病で仕事や家事に影響が出る	(例) 子ども医療費助成制度 健康保険 定期健診や予防接種
レジャー行事 	(例) 旅行や行事にお金がかかる 準備に時間や手間がかかる	(例) 地域のイベント 児童館・公園 子育て支援センター



子育ての各場面における負担を、特定の家庭の問題として捉えるのではなく、社会全体で支える必要性があることに気付かせる。



金銭的・時間的・心身的な負担と、それに対応する社会の支援を結び付けて整理し、支援が生活を支える役割を果たしていることを理解させる。



※ICTが使用できない場合の対応策

本時では「どのような子育て支援があるのか」についてグループで話し合いを行い、生徒の知識や経験をもとに整理させる。具体的な支援内容や制度については、宿題として調べ学習を行わせる。

《 振り返り ～子育てがしやすい社会を実現するためにどのような支援が必要だろう～ 》

【評価の観点】

家庭・地域・社会・制度などの視点から、具体的な支援策を整理できているか。
支援の必要性について、自分の意見や気づきが具体的に書けているか。
課題と支援策の関係性が明確か。



3. 夢を叶える第一歩～「働くってどういうこと？」



はじめに

何のために「働く」のだろうか？考えてみよう

(例) お金を得るため、人の役に立つため、社会をよりよくするため
自分を成長させるため、自立するため

生徒が「働くこと」の意味を自分事として考えられるようにする。
お金だけでなく、生活・社会・自己成長など多面的な価値を意識させる。



身近な「働いている人」に目を向けてみよう

身のまわりで「働いている人」を一人思い浮かべてみよう。
(例：家族・地域の人・お店の人など)

① 職業名・どんな仕事をしている？

(例) コンビニ店員 ・ レジで接客をしたり、商品の補充をしている

② その仕事は、どのような形で社会に役立っている？

(例) 必要なものをすぐ帰るようにして、生活を支えている

③ どのような思いでその仕事を行っているのだろうか？(やりがい・苦労等)

(例) お客さんから「ありがとう」と言われることがやりがい
通勤時間帯は混雑しているので大変

生徒が身近な「働く人」を意識し、仕事の内容・社会への貢献・働く思いに
気づけるようにする。

働くことはお金を得るだけでなく、社会に役立ち、人や地域に貢献する活動で
あることを理解させる。



学びを活かす

【家庭分野】での学びを人々の暮らしを支える仕事として活かす職業の一例
「やりがいを感じる時は？」



※この資料は「参考」として提示

～「食生活」～



心を込めて作った料理を食べたお客様を笑顔にできた時です！

料理人

～「衣生活」～



自分がデザインした服をお店で見たり、お客さんが喜んで着てくれた時です！

ファッションデザイナー

～「住生活」～



設計した建物が、長く使われ、人々の生活を支えているのを見る時です！！

建築士

～「消費・環境」～



困りごとを解決したり消費者の権利を守ることができた時です！

消費生活アドバイザー

～「家族・地域」～



利用者さんや家族の笑顔や「ありがとう」の言葉をもらえた時です！

介護士

《 振り返り① 職業を選ぶ時に大切にしたいことは？ 》

(例) 人の役に立つかどうか・自分の好きなことを活かせるか・自分自身を成長させられるか
将来の生活に必要なお金を得られるか・やりがいがあるか・安定して働けるか

《 振り返り② 興味のある職業とその理由 》

★職業名

(例) 看護師、パティシエ、正社員

★理由

(例)人を助ける仕事でやりがいがありそうだから。
お菓子作りが好きで、喜んでもらえるから。
安定して働けて、社会に貢献できるから。



「職業を選ぶ際に何を大切にしたいか」を考え、自分の価値観と結びつける



興味のある職業とその理由を書くことで、将来の働き方を具体的にイメージさせる



主な仕事内容は？収入資源は？

👉 仕事の具体的な内容を知り、職業を現実的に捉える。

👉 「どのようなことをしている仕事か」を、自分の言葉で簡潔にまとめさせる。

やりがい・大変なことは？

👉 働くことにはやりがいだけでなく、苦労や責任も伴うことを理解する。

👉 魅力と大変さの両方に目を向けることで、仕事の実際をバランスよく捉えさせる。

職業名

👉 ICTの活用が難しい場合は、本活動を宿題として実施し、家庭での調べ学習を行わせる。その際、本時では自分のイメージをもとに記入させ、後の宿題における「職業調べ」へとつなげる。

必要な資格やスキルは？

👉 仕事に就くために必要な準備や学びがあることに気づく。

👉 資格の有無に限らず、知識・技術など幅広い力が必要であることを押さえる。

社会とどうつながっている？

👉 職業が社会や人々の生活を支えていることを理解する。

👉 「誰の役に立っている仕事か」「社会のどのような場面を支えているか」という視点で考えさせる。

向いている人は？

👉 職業と自分の性格や考え方の関係を考える。

👉 能力の優劣ではなく、興味・関心や大切にできることに着目させる。

《 振り返り ～調べたことをもとに、今の自分にできること～ 》

【評価の観点】

調べた職業の内容を踏まえ、働くことと自分とのつながりを考えているか。
仕事に必要な力や考え方をもとに、今の自分にできることを具体的に考えているか。
将来の生活や生き方について、前向きに考えようとしているか。



4. 学習を終えて～3年間の学習を振り返ろう～



ガイダンス時の手紙(p9)を読み返そう

①ガイダンス時の自分と比べて、成長したと思うこと

【自立面】

(例) 料理や洗濯、掃除などをできる限り自分でやるようになった。
お小遣いの使い方や貯め方を考えて、自分で計画できるようになった。
自分の意見や気持ちを、相手に伝えるようになった。

【共生面】

(例) 友達と協力して活動に取り組めるようになった。
家で家族と協力して料理や掃除をするようになった
地域の行事や清掃活動に、積極的に参加するようになった。

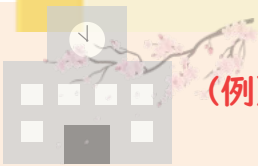


3年間の学びの集大成として、自分自身の成長を実感させる。



自立・共生の力がどのように身についているかを可視化し、
卒業後の生活に向けて意識を高める。

②家庭科での学びを活かして、これからの生活で大切にしたいこと



(例) 制服や服の購入時に値段や品質を比べて、賢く選びたい。
賞味期限や食材の保存方法に気をつけ、食品ロスをなくしたい。
お小遣いの一部を貯金して、将来のためにお金を管理したい。
地域の掃除やイベントに参加して、周りの人と協力したい。



家庭科での学びを整理し、今後の生活にどのように活かすのかを考える時間とする。



中学校家庭科最後の授業であるため、生徒がこれまでの学習を振り返り、
今後の生活にどう生かすかを考えることを重視する。



家庭科での学びが今後の自分の生活に役立つことを意識させ、
自立した生活や、より豊かな暮らしへの関心を高めるようにする。



資料 「チョクク家 父・母の給与明細」 <指導書用>



ねらい

本資料は、家庭の収入の主な柱である「給与」の仕組みを具体的に理解させることを目的としている。給与明細を通して、給与は記載されている金額のすべてをそのまま受け取れるものではなく、税金や社会保険料などが差し引かれた上で支給されていることを理解させる。あわせて、差引支給額が家庭の収支における「収入」となることを確認し、家計管理の学習へとつなげる。

授業での扱い方

父・母それぞれの給与明細を提示し、給与として支払われる金額のうち、最終的に本人に支給される金額がどれに当たるのかを確認させる。次に、総支給額と差引支給額の差に着目させ、給与から差し引かれている項目があることに気づかせる。これらを通して、給与はすべて自由に使えるお金ではなく、社会の仕組みに基づき一定額が控除された上で支給されていることを理解させる。

給与明細の基本的な見方

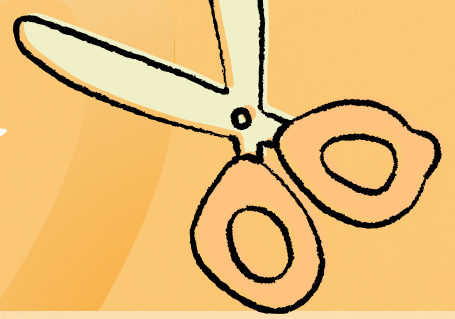
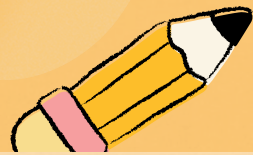
- ・ **総支給額**⇒基本給や各種手当を合計した、差し引き前の給与の総額である。
- ・ **控除**⇒法律や制度に基づき、税金や社会保険料などとして給与から差し引かれる金額である。
- ・ **差引支給額**⇒総支給額から控除額を差し引いた、実際に支給される金額であり、家庭の収支では「収入」として扱う。

控除項目の説明

- ・ **健康保険料，介護保険料，厚生年金料，雇用保険料＝社会保険料**
⇒給与水準に応じて定められており、給与から差し引かれる。介護保険は40歳から差し引かれる。
- ・ **所得税，住民税＝給与から差し引かれる税金**
⇒所得税はその月の支給額に応じた金額、住民税は前年の収入に基づいて算出された税額である。

指導上の留意点

- ・ 本資料は学習用のモデルであり、実在の家庭や実際の給与額を示すものではないことを確認する。
- ・ 給与額の多少を比較することを目的とせず、給与の仕組みや差引支給額の意味を理解させることに重点を置く。
- ・ 控除は「差し引かれた金額」ではなく、社会や将来の生活を支える制度に基づく負担であることを補足する。



ーおわりにー

日々の生活は、さまざまな選択の積み重ねです。

どんなものを食べて、どんな衣服を着て、
どんな住まいで暮らすのかー。

生活の中には、たくさんの選択する場面があり、
今後さらに多様化していくことでしょう。

そんな中で、これまで家庭科の学びを通して
身につけてきたことは、生活の中でのお金との
向き合い方も含めて、より良い暮らしを考え、
形にしていく力になります。

これからも、中学家庭科での学びを活かして、
自分らしい豊かな生き方を見つけていってください。

